学校番号	３００１

令和８年度　農業科（バイオサイエンス科）

教科	農業	科目	アニマル サイエンス	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	四訂版　サイエンスビュー生物総合資料　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

バイオサイエンス科の専門科目においては生物ドメインとして主として真菌、細菌、キノコ類などの有用微生物および農作物としての植物について生命科学コースを中心に専門高校水準で取り扱っています。一方、バイオサイエンス科から多くの就職者を送り出している製薬業界では、専門職として実験動物の取り扱い人材が求められるとともに、進学者も農学部畜産学科関連の分野に進むものも継続して出しています。

本科目は、バイオサイエンス科の生徒の中で、卒業後に医薬品の開発や安全性試験を行う機関の実験動物管理業務の就職や大学農学部畜産学科や動物看護士養成の専門学校等への進学を希望する人に向け開設します。授業は副教材を使用した座学を中核としますが、調査研究発表や課外時間での実習等への参加も前提とします。

「動物の発生と組織・器官」、「体内環境の維持」、「動物の反応と行動」、「動物の系統と分類」です。各自調べてきたことの発表も求めます。高校生物の資料集を授業で使用します。中間期末の定期考査を実施します。

各回の授業では学習する単元について、基礎的基本的な内容についての学習を足がかりに、自ら情報を収集、整理するなかで理解を深めていることを前提とします。

2　学習の到達目標

【知識及び技術】

各単元で使用される専門用語および動物特有の生命機構の概念について、正しく理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

各単元で習得した専門用語および動物特有の生命機構の概念について、文章や作図等を通じて説明できる。

【学びに向かう力、人間性等】

授業の準備や課題等を通じ学習内容の深化に積極的に取り組む。また生命を大切にする具体的姿勢を習得する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	アニマルサイエンスに関わる専門用語および生命機構の概念について再認・再現が十分な水準でできている。	アニマルサイエンスに関わる専門用語および生命機構の概念について自らの文章や作図内で取り扱うことができている。	授業参加に必要な準備が整っている。授業の進行に積極的に参加するとともに課題に対して積極的に取り組む。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	発生と組織	動物の発生と組織・器官 ○動物体の構成・器官系 ○組織系 ○胚葉の分化・器官形成 ○発生の仕組み・誘導	a:専門用語と概念の理解水準 b:専門用語と概念の伝達と活用 c:十分な客観的取り組み姿勢	考査	考査 プレゼン	観察記録
	恒常性1	体内環境の維持 ○体液と体内環境 ○循環系と酸素の運搬 ○消化器官・呼吸器官 ○肝臓	a:専門用語と概念の理解水準 b:専門用語と概念の伝達と活用 c:十分な客観的取り組み姿勢	考査	考査 プレゼン	観察記録
2	恒常性2	○腎臓 ○自律神経系 ○ホルモンによる調節 ○免疫	a:専門用語と概念の理解水準 b:専門用語と概念の伝達と活用 c:十分な客観的取り組み姿勢	考査	考査 プレゼン	観察記録
	反応と行動1	動物の反応と行動 ○刺激の受容と感覚 ○視覚器 ○聴覚器・平衡器 ○ニューロンと興奮の伝達	a:専門用語と概念の理解水準 b:専門用語と概念の伝達と活用 c:十分な客観的取り組み姿勢	考査	考査 プレゼン	観察記録
3	反応と行動2	○神経系の発達と脳 ○筋肉の構造と収縮 ○刺激と行動	a:専門用語と概念の理解水準 b:専門用語と概念の伝達と活用 c:十分な客観的取り組み姿勢	考査	考査 プレゼン	観察記録
	系統と分類	動物の系統と分類 ○系統樹 ○発生過程による分類	a:専門用語と概念の理解水準 b:専門用語と概念の伝達と活用 c:十分な客観的取り組み姿勢	考査	考査 プレゼン	観察記録

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度